

ミカン生育情報

千葉県
平成28年1月号

平成27年のまとめ

平成27年の気象

平成27年の気象を表1に示した。月別の平均気温は、平年並みの月が多かった。3、5、11、12月では平年より0.9℃以上高かったが、9月は0.9℃低かった。年平均気温は15.8℃で平年より0.2℃、前年より0.3℃高かった。

月別の降水量は、平年に比べ2、4、5、6、10月では少なかった。特に10月は平年の36%の降水量であった。他の月では多く、特に9月は平年の204%と非常に多かった。年間の降水量は平年の112%であった。梅雨明けは7月10日頃で、これは平年及び前年に比べ、共に11日早かった。

月別の日照時間は、平年に比べ2、3、7、10月で多く、その他の月では平年を下回った。10月に関しては平年の135%の日照時間であった。年間の日照時間は平年の99%であった。

表1 平成27年の気象（暖地園芸研究所）

月	平均気温 (°C)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	6.0	6.0	6.5	120	87	90	130	169	158
2	6.4	6.3	5.9	89	103	142	167	151	120
3	10.3	9.2	9.7	195※	182	167	199	154	179
4	13.8	13.8	13.3	167	169	166	130	166	191
5	18.9	17.7	18.1	74	178	162	179	186	248
6	20.4	20.8	21.2	229	251	334	134	135	154
7	24.5	24.4	24.4	297	173	55	208	175	203
8	25.7	25.9	25.5	180	133	62	197	220	213
9	22.0	22.9	21.7	449	220	122	129	146	180
10	17.9	18.0	18.1	93	258	305	185	137	141
11	14.2	13.3	13.8	237	144	67	125	144	130
12	10.1	8.5	7.6	102	94	131	147	166	195
合計/平均	15.8	15.6	15.5	2229	1993	1800	1930	1948	2113

※3月の降水量について、本年データは欠測のため、気象庁（館山）のデータを適用した

病害虫、生理障害の発生

果樹カメムシ類の発生は少なめであったが、園の立地条件によっては加害が見られた。暖地園芸研究所内では、林縁に近い普通温州で加害が見られた。

その他の病害虫の発生では、黒点病の発生が多くみられ、特に、秋以降の多雨で感染したとみられる果実が多かった。黒点病により、果皮に緑色が残り着色不良となっている果実もみられた。同じく、夏の終わり頃からの高温多雨で疫病菌やカビ類による果実腐敗が多くみられた。ミカンハダニの発生は多い傾向であった。また、暖地園芸研究所内で7月に殺ダニ剤を散布していない温州ミカンではミカンサビダニによる加害が多発した。

生理障害としては、油胞の周りの果皮がくぼみ、その後、条件によっては変色する症状が発生した。これは、果皮の成熟期以降に、果面について水滴が乾きにくい園で発生しやすい。また、カルシウム資材を投入していない園で発生しやすい。収穫時には目立たなくても、貯蔵中・出荷後に悪化することがある。また、浮皮果が激しく発生した。これは、着色期以降の高温多湿により、果肉の肥大が停止しているにも関わらず、果皮が生育を続けるため生じる。浮皮果では、食味や貯蔵性が低下する。

果実の生育

昨年は裏年であり、冬期に特段の低温がなかった（2015年1月18日の-2.2℃が極温）ため樹勢は良好であった。暖地園芸研究所における今年の温州ミカンの発芽期は、早生温州と普通温州ともに4月14日であり、早生温州は平年より5日、普通温州は平年より1日遅かった。開花盛期は、早生温州が5月11日、普通温州は5月15日で、ともに平年より3日早かった。

3調査地（表2-注1）の収穫期の横径、縦径、一果重の平均値は早生温州、普通温州ともに平年以下であった。果実品質は、着色が普通温州ではやや遅れたが、早生温州は平年並みであった。糖度はいずれも平年より高かった。また、減酸の進みも早く、酸度は早生、普通温州とも平年より低かった。そのため、甘味比（甘味比＝糖度／酸度）は早生温州、普通温州とも平年を上回った。

表2 平成27年の果実品質

種 類	横径 (cm)		縦径 (cm)		一果重 (g)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
早生温州	6.1	6.5	4.7	5.1	93	117
普通温州	7.1	7.5	4.6	5.1	119	147

種 類	着色程度		糖度 (%)		酸度 (%)		甘味比		果肉歩合 (%)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
早生温州	7.3	7.4	10.1	9.5	0.76	1.11	13.4	8.8	80.8	81.4
普通温州	7.6	8.1	10.0	9.9	0.78	0.95	12.8	10.7	73.8	75.2

注 1) 南房総市三芳地区、千倉地区及び暖地園研の3園地の平均値 2) 平年値は平成7～26年の平均値 3) 収穫日は早生温州：11月4～5日、普通温州：11月26日

1 月以降の栽培管理

土づくり・施肥

高品質のミカンを生産するため、定期的に土壌の物理性及び化学性を把握し、1～2月に堆肥等有機物及び3月下旬に春肥の施用を行う。

微量元素の欠乏・過剰で生じる生理障害が発生している樹に関しては、土壌の pH 調整など適宜行う。

間伐・剪定・植え付け

剪定の前に、密植園では間伐を実施する。間伐することで、作業性の向上、高品質果実生産につながる樹形への整枝ができるようになる。

平成 28 年は着果量が少なく、新梢の発生が多くなることが予想されるので、間引き剪定を中心に行い、結実量を確保する。隔年結果を助長するので極端な樹形改良は避ける。

改植などで苗木の植え付けをする場合、植え穴を準備し、厳冬期が過ぎた3月頃に植えつける。

病虫害の防除

剪定時には黒点病やそうか病、かいよう病の防除のため、枯れ枝や罹病枝葉を除去し、園外で処分し、園内の菌密度を下げる。そうか病は発芽した芽が1 cm 程度に伸びた時期（4月中旬）及び落花直後（5月下旬）に薬剤防除を行う。

カイガラムシ類、ミカンハダニ、ミカンサビダニの防除のため、マシン油乳剤の散布を行う。ただし、樹勢の弱い樹への散布は避ける。また、厳冬期は落葉する危険があるため避ける。

カタツムリ、ナメクジ類の発生を抑制するため、園内で潜伏場所となるような不要な石積みやシート類、木材を除去する。園周辺の茂みからの侵入も考えられるため、園周辺部分の整理・清掃も行う。通風が悪く、湿った園では発生しやすいため、排水溝の清掃を行い、水はけを良くする。

防除に際しては、千葉県農作物病虫害雑草防除指針を参考に行う。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合があります。

《 生育情報の問合せ先 》

千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>